

# 社会貢献活動に向けて

花ももの里は、令和2年11月に開始しました。

当法人としては、親なき後の障がい者の生活を守りたいという思いに突き動かされていました。きっかけは、女性用グループホームのスタッフの補充が難しいことから、二つあるホームを合併する計画から始めました。丁度いい物件が大阪市東淀川区で見つかったが、部屋が25室ある。大阪府では家族的なホームと言う考えの下、同一建物内ではグループホームは10室迄と決められていた。仕方なく、有効利用としてシェアハウス風花(高齢者用)を考えました。

4階 女性用グループホーム(共同生活援助) 10室

3階 シェアハウス風花(障がい者・高齢者の住居・・・公益事業) 14室

2階 多目的ホール 入居者同士の自然な交流を図ることが出来る。

シェアハウス風花では地域の相談支援センターや地域包括支援センターの紹介により、令和2年11月の2名から5か月後の令和3年3月では8名となり(6月現在では13名)地域の需要がかなりあることが分かりました。

当法人では女性用グループホーム花もも園と、シェアハウス風花との合体により、多種多様な付加価値がかなり付いたと思います。

- ・医療や福祉とのスムーズな連携により、安心・安全な生活が提供できること。  
(緊急の病気などで、救急車を呼ぶ判断など、誰かがいるという安心感もある。)
- ・自室を一步でれば公的な場所であり、社会のルールを自然な形で学べること。
- ・生活保護の範囲内で生活が出来、経済的にも不安がないこと。
- ・相談者やケアマネの存在が身近にあるので、自分の意思や能力を活かせること。  
(利用者の自立に向けての方針を皆で創っていくことによって、スタッフにとっても能力アップのいい体験となる。)
- ・多目的ホールでは地域交流を企画し、文化的な活動に触れることができること。

そして5か月後の現在では、一人ひとりの個人的な生活を守りながら、孤立を防ぎ、他者への思いやりや信頼を通してコミュニティの力を蓄えること。それを地域に開放し、発信して行くことで、社会貢献につなげていく。それがエッセンシャルワークとしての社会福祉法人の使命であるとの気づきを得たのです。

また、6月からは当法人の相談支援事業所「コミキャンサポートセンター」も、花ももの里2階に移転、合流しています。相談支援は、利用者の皆さんと共に、悩んでいることや困っていること将来の不安などを考え、必要に応じて助言や利用できる福祉サービスをご紹介します。

コミュニティキャンパスは、社会貢献活動に向けて、より一層前進いたします。ご期待ください。



花ももの里、玄関前に咲いた「花もも」



社会福祉法人  
コミュニティキャンパス  
理事長 牧野篤子

